

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	グループホーム 新賀痴呆対応型共同生活 介護事業所		
<b>日付</b>	平成19年3月31日 特定非営利活動法人		
<b>評価機関</b>	ライフサポート		
<b>評価調査員</b>	在宅介護経験13年		
<b>評価調査員</b>	在宅介護経験18年		
<b>自主評価結果を見る</b>			
<b>評価項目の内容を見る</b>			
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)</b>			

## 外部評価の結果

<b>講評</b>
<p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>平成18年末現在で、このグループホームの状況を見てみると、先ず要介護5の人が5名で半分以上を占めている。平均年齢86才。最高年齢92才はさほど高い年齢ではない。過去1年間の利用者の退去者が2名で、1名は経済負担の点で、家族が特養への移転を希望した退去。他の人は病気療養が必要で入院し、いずれも入居期間6年近くグループホームでの生活を続けてきた。このような利用者の状況からこのグループホームではさすがにケアが行き届き、最期まで安定した生活を続けさせてあげられる境遇が整っていると考えられる。他のホームの例からすると、この状態まで重度化が進む利用者を滞在させることは少なく、大きな法人であれば、特養ホーム等への移転が多いし、家族もそれを望み、生涯を安定して世話してもらえる道を選ぶのが多い。</p> <p>このホームでは、ターミナルケアも経験しており、身体的にグループホームで最期まで住める状態が整っていれば管理者や職員がずっと一緒に生活してもらおうという気持ちがあり、ここを最期の住処として選べる事は、利用者や家族にとって最高の幸せであり、その人らしく最期まで尊厳ある心豊かで安らかな生活が送れるための空間とサービスが受けられる理想のホームと言えるだろう。</p> <p>このホームは、一つのホームでありながら5人と4人のユニットのように上下階に別れていて、職員は上下階を上がったり下がったりしながら大変だろうと思うが、そこはチームワークよろしくゆとりのある表情と行動で、利用者に満足感を持って生活してもらえるよう、ケアの提供をしている。利用者も主な時間を4~5人の少人数で過ごせるということは、より良い家族として家庭的な生活が送れるのかも知れない。</p> <p>全国的にも影響力のある「きのこグループ」の施設として、特に6箇所のグループホームが画一的な運営ではなく、それぞれのホームが特徴を持ち、自主的なサービス提供していることに改めて興味深く関心を持ち続けていきたい。その一つとして、このグループホームのケアサービス提供に期待しておきたい。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>次のような提案をした</p> <p>グループホームのサービス評価のあり方について、ホームの運営マネジメントと自己評価と外部評価が一体となって連携してホームのサービス提供の改善に相乗効果を生み出さねばならない。評価についても、改善すべき事項は永遠に続いていくものと考えるので、評価のあり方については一考してもらいたい。</p>

## I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>昨年県外の家族からターミナルケアを頼まれた。その経験してきた事を生かした介護を元に「その人らしく最後まで一人ひとりの思いに出来るだけ応えていきたい」という職員の姿勢が、明るい笑顔と声かけからもそのケアの自信が漂ってくる。かなりハードな日常介護にもかかわらず、認知症ケアの専門家としての意識を持って働いているだけに、不満や弱音が聞かれないのは、さすがと感銘を受けた。</p> <p>「私達は認知症に対してその人らしさを大切に、一人ひとりの希望を尊重したケアを提供いたします。『優しく笑顔で関わります。本人が望むオシャレはいつまでも私達がサポートします。』生活の中に個々の趣味を生かせるよう工夫し入居者の気分転換をはかります。の理念を職員全員で一つでも実現していくことを目指している。</p>		

## 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<b>記述項目</b>	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>9人のユニットを上下に別れており、4人と5人の単位にした事により、リビングルームで、職員が調理等しながら少人数の利用者に目配りが自然に出来、家族と同じような時間の流れの中でそれぞれの役割を持って生活が出来ている。たまには上の人の方が下に、下の人の方が上に来て話をしている。職員も「いらっしゃい」と声かけをしている。利用者も職員も笑顔と笑い声が絶える事なく時間が流れているので、施設にいるとかの感じはない。自然な流れの中で、介護というより当たり前の日常生活が遅れているように思えた。利用者の趣味や好みを理解し、職員と家族の方によって個々の部屋も明るく、清潔に利用者にも似合った部屋作りをしている。</p>		

## ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

## III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>個人記録には生活シートの中に人生の大きな出来事やエピソードが書き込まれており、その人の趣味や得意な分野が生かされるような場作りに力を入れている。</p> <p>うまく自分の意思を表現できない人のケアもこのホームの職員はさりとやっている。利用者の心の中を見る事が出来ているのだろう。それとも一心同体で心の交流が出来ているのだろう。認知症ケアの基本が職員の頭の中からさりと出てくるのだろう。一人ひとりの利用者の介護の仕方も見事である。利用者の尊重やプライバシーもよく守られている。</p>		

## IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	<p>職員の研修も徹底されている一方で、職員は自らの家に余っている物でホームを飾りつけたり、利用者のために色々な工夫をしている。謙虚な姿勢で質の高いケアについて勉強し努力している。</p> <p>地域から離れた場所にあるので、ホーム側から家族や地域の人を招き入れるように、もっと積極的に努力する必要があると思う。地域の人が認知症について理解してもらう為にグループホームを見学してもらえるようなきっかけ作りをしてもらい、積極的に地域の人々に認知症の人の生活の様子を知ってもらいたいと考えている。</p> <p>認知症ケアの質の向上について、色々な角度からも、先駆的立場で行動しているグループであることをひしひしと感じた。</p>		